

【ものづくり 人づくり 地域づくり】

あいコープふくしま・常総生協 わたの交流会 (9/4 郡山市安積総合学習センター)

ふんわりの優しさは、思いをつなげて。



当日は両生協合わせて 38 名の組合員で「わた」のこと、子ども達のこと、原発のこと、これからのことについてじっくりお話できました。中段左から 2 人目があいコープ橋本副理事長。下段右から 3 人目が常総村井理事長。

わたの花は、子ども達を放射能から守るシンボル。 組合員の庭々に、しっかりと咲き広がっています。



今回の「わたの花の神秘学び広げる交流会」では、村井理事長から綿の歴史と神秘を学びました。発芽の季節には種が熟を出すお話や、たとえ根がなくなってもコットンボールは弾けようと準備をし、また「会話」がたくさんあるところで育つと大きく弾けるお話。更には、日本の綿は雨を避けるために花も下向きになっているなど、その地域、その土地に合う綿になることを知りました。

ここ、あいコープふくしまでは綿の花が放射能から子どもたちを守るシンボルとなり、台風にも負けず、組合員の庭々に黄色い花がしっかりと咲き広がっています。

マンション住まいの佐久間さん（あいコープ組合員）は大家さんが畑に種をまいてくれて、大家さんにつながる事ができたとお話をしてくれました。参加者の皆さんは、(4月に常総生協から受け取った) お布団の御礼や綿くりの感動を述べ、常総生協の皆さんと交流できたことを喜びました。

村井理事長を始め、常総生協のみなさまには感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

あいコープふくしま 副理事長 橋本拓子

■東海第2 原発運転差し止め訴訟(第4回口頭弁論)

日時：10月17日(木) PM 2:30 ~ 4:00 まで
場所：水戸地方裁判所
内容 (1) 原告魚住さんの口頭弁論
(2) 地震・津波と東海第2原発
お問い合わせ：常総生協(050-5511-3926) まで。

【催し案内】沖縄戦の証言(語り)平良とみさん

- 日時：10月4日(金) 18:20 開演
- 場所：つくばカピオホール
- 問い合わせ：080-5888-7824(事務局)
- 主催：憲法9条の会つくば

**涙も出たけれど、元気とありがとうも貰いました。
言いたかったこと、聞いてみたかったこと、みんな話せて。**（郡山市安積総合学習センター）

2011年10/20。「福島の子供たちに和綿の布団を贈る交流会」から本格的に始まったあいコープふくしまとの綿の交流。

そして先日9/4。「今年は種から綿を育てて綿を収穫し、布団を作ろう」という取り組みを始めたみなさんと交流をしました。

当日の交流会の様子と、震災以降あいコープふくしまの皆さんが感じてきたこと、常総生協の皆さんに伝えたいこととお話しいただきました。

■常総生協さんと知り合えて、勝手に「新しい親戚」が出来たと思っています。



原発事故後に妊娠が分かり、当時はイライラしたり不安な思いでいました。出産後、常総さんから和綿の赤ちゃん布団を頂戴しとてもうれしく、安らぎました。勝手に「新しい親戚」ができたと感じています。

■昨年の「わたの里ツアー」。母子ともに、ほっと気が休まるひと時を頂きました。

震災2ヶ月後に出産。当時の小児科の先生に「すぐに避難しなさい」といわれ、半年ほど宮城の実家に避難しました。その後、福島に帰ってきたものの母子ともに不安な気持ち、ストレスがありました。そんな中の常総さんとあいコープの「綿の里ツアー」。当時の私たちは不安な気持ちが一時的でも休まる時間は大切に、その時間を頂きました。親戚は「何かあったら言ってね」とは言ってくれ

お待ちかねの昼食交流会！当日みんなで作りました。

あいコープ組合員さん定番の「ぼぼっとパスタ」（冷製パスタ）2品をご紹介します。

トマトと玉ねぎの冷製パスタ（二人前）

※パスタは茹でて、水でしめます。

- ①玉ねぎ2分の1個・・・みじん切り
- ②トマト1個・・・さいの目切り
- ③ソース

- ・塩こうじ 大さじ2
- ・「食彩酢」大さじ2
- ・オリーブオイル 大さじ1
- ・黒こしょう 少々

①+②+③これをパスタにかけてできあがり！



ねばねば冷製パスタ（二人前）

※パスタは茹でて、水でしめます。

- ①もずく・納豆・・・左③のソースで和えておく。
- ②オクラ（さつとゆでて2,3本）・・・輪切り

※パスタの上に①②をトッピング。

さらに鰹節をふりかける。

③のソースだけでは味が薄いので最後にポン酢（かけぼん）をかけてできあがり！



るのですが、なかなか言い出せません。そんな中でこうした綿の繋がり、助けがあることはとてもありがたいです。あと、綿くり機に子どもの名前を付けて頂きとてもうれしかったです。綿を通じて繋がれた。感謝しています。

■地域でも綿で人と人がつながってきています。

管理人さんが畑に常総生協からの綿の種を畑にまいてくれました。「コットンボールができれば教えるからね!」。地域で綿を通じた交流が生まれました。

■とにかく綿くりで癒される。楽しくて楽しくて、いやなことも忘れてしまう。

今年1月に常総生協から40kgの綿があいコープに届き、時間の余裕もあるので、何気なく綿くりを始めました。ところがはまってしまい、今では友達もさそってあいコープの事務所で綿くり。皆で「癒されるね～」と楽しんでいます。

■今日は、とにかくお礼が言いたくて参加しました。

原発事故当時、妊娠7カ月でした。どこに避難すればいいのか、でも3世帯同居。バラバラにはなれない。どうすればいいのか。お手上げ状態でした。そんな中、常総生協から温かい和綿布団が届き、とてもありがたかった。当時、そこに布団があるだけで人の温かさを感じ、子どもと安らぐことができ、幸せでした。

交流会。嬉しさ 楽しさ 盛り上がり。涙も交えて 素敵な一日でした。

(常総生協組合員感想)

明るい気持ちでいっしょに前に！

福島のお母さんたちは、みんなたくましかったです。女性として独立した方も多く、仕事も子育ても熱心。

そんな一生懸命の日常のなかで、綿がみなさんの心をほぐして、ふわふわやさしくしてくれる。綿のすごさをあらためて実感です。

当日、私にできる一番のことだと思って皆さんに聞いて頂きました。「許す」ということ。

もうみんな十分苦しんだし、憎んだし、世の中のあらゆる悪を見てきたのだから、そろそろ心を切り替えて、明るい気持ちで進んでもよい時期だと思えます。

そして明るく生活、子育てする先輩ママやご近所さんがふえれば、これから育児する女性、子どもたち、最後には経済第一の人や政治家も我が身を振り返るようになるのではないのでしょうか。こころの交流。今度は常総とあいコープの交換日記とかいかがですか。

(守谷市・板子)

綿くり機、大活躍でうれしいなあ！

こんにちは！山中のおじさんです。いやあ～、また、あいコープふくしまの皆さんに会えました。我が家の食卓の後ろの壁には、昨年一緒に撮ったあいコープさんの祭りの写真が飾ってありますので、毎朝写真の皆さんとおはようをしています。聞こえているかな！

おじさんの作った綿くり機に、皆さんの名前がつけられていて驚きましたよ。この子もあの子もきっとクルクル回してくれているんだなあと思象するととても元気が出ます。私の腕がお役に立てて良かったです。みんな良い子で大きくなって下さいね。お母さんもお父さんも良い力を出していきましょう。よろしくお祈りしま～す。

(つくば市・山中)

あいコープのお母様方に いつも元気づけられます。

日頃、原発への不安、不満、不信で落ち込むことも多いこの大変な時期、内容の濃い素晴らしい交流会を企画していただきましたあいコープふくしまの皆様、ありがとうございます。皆様の底力を感じます。

綿くり機も6台に増え、たくさんのお母様方の手によって「おらコットン」「おらコットン」と……。交流も深まり作業もはかどって、あいコープふくしまのお母様方はがんばっています。

(守谷市・植原)

最高の1日でした。

短い滞在でしたが、あいコープのお母さん方は決意をもって福島にとどまる覚悟が伝わって来ました。

「わた」で繋がって、若い組合員さんが「気の休まる時間を作ってくれた」「本質をついた支援をして下さった」と次々にお礼を言われ、「わた」に携わった常総の組合員にとって最高の1日となりました。

(取手市・山成)

嬉しい再会でした！

2年前に会った時は産まれたばかりの赤ちゃんが「こんなに大きくなって！」と、嬉しい再会もありました。

お布団が大好きの子供達の話や沢山聞いて思ったことは、(綿の)移植にも耐えられず、雑草との闘いにも遅れをとるばかり、そんな彼女(綿)達が真夏に向かってすいすい大きくなり、花の準備を始める……。そして物語は福島に続いていたのでした。

鉢植えだけど、花をつけているという方、うちではコットンボールになったとかひとしきり。会場までの風景と途中のおしゃべりと、沢山楽しみました。

(取手市・小浦方)

真綿の力は心も身体も癒してくれる

「あいコープふくしま」の皆さんと久しぶりにお会いでき、暖かい心と笑顔に感動しました。

真綿のお布団は確実に受け継がれていました。子どもたちが育つ中で真綿の力は心も体も癒してくれるんですね。

(守谷市・池松)

わた交流 心耕す気力満ち

あの日あの時来、畑交流も布団交流も広げて畳んで、折々には干してくださる皆さんが居てくれる。笑顔と涙の思い出は、太陽に当たるとふっくらほんわりする布団のようです。ありがとうございます。気持ちが伝わってきました。

オリンピックにはぞっこんでも、原発事故には知らん顔する国はさておいて、私たち個々の力はとても小さく、限度はありますが、心が通う一番道になれたらと思います。

昼食を囲んで、一人ずつが思いの丈を発表し、心のバトンをつなげました。短時間の交流会でしたが、お互いが心打たれた熱い空間でした。

後戻りのできないあの日があったからこそは、ますますの重量感をもって常総生協の今に繋がっていきます。

理事長 村井和実

子どもたちは原発事故でどのくらい甲状腺被ばくしたのか？

前回 NEWS9-4 で、母乳からヨウ素 131 が検出された主要な要因は「呼吸」による空気吸入だったことをお伝えしました。

今週は、データのある地点の空気を吸い込んだ場合に母乳から「出てくるはず」の量と、実際に母乳からヨウ素が「検出された」量を照合してみた結果についてお話しします。

結論から言いますと、「守谷市」のお母さんと「柏市」のお母さんが吸い込んだヨウ素 131 の量は、空気中の測定データのある「つくば市」と「千葉市」のよりも、たくさんのヨウ素 131 を吸い込んでいたというのが結論です。

だとすると、乳児が息をして吸い込んだヨウ素 131 も多かったということです。

実際のバイオアッセイとしての母乳検査から、空気中の濃度を逆算して、その空気を乳児も吸い込んだこととし、呼吸からのヨウ素 131 と母乳から摂取したヨウ素 131 を足して、茨城・千葉のホットスポットエリアの「乳児の初期甲状腺被ばく線量」のレベルを推定して、子どもたちの今後の様子を見守ってゆく基礎データにするという目的です。

次の手順で再検証しました。

- 1) 2011 年 3 ~ 4 月の毎日の空気中のヨウ素 131 濃度から毎日の母親が吸入した量を計算する（大人の 1 日呼吸量を 22.3 m³ とする）。
- 2) 母体に取り込まれたヨウ素 131 は、摂取後 6 時間をピークに 24 時間以内に母乳に排出される。
- 3) 母体から母乳へのヨウ素 131 移行率（排出率）を 20% として母乳から検出されるであろう量を計算してみる。
- 4) 実際に母乳から検出されたヨウ素 131 の量と比較してみる。

勉強会ではつくば市の空気中のヨウ素 131 濃度による吸入量と守谷市の母乳の比較表も紹介しましたが、ここでは千葉市の空気と、柏市のお母さんの母乳の比較検討を紹介します。（右上表）

柏市のお母さんの母乳は 3/30 に搾って頂いたもので、搾乳から 5 日後の 4/4 に放射能を測定しています（ヨウ素 131 を 36.3 ベクレル/kg 検出）。

ヨウ素 131 は半減期 8 日ですので、搾乳時に換算（減衰補正）すると 56.0 ベクレル/kg となります。

2 回目は、4/6 に提出頂いた母乳を翌日 4/7 に測定して 14.8 ベクレル/kg でしたので減衰補正すると 16.1 ベクレル/kg です。

日	空気中のヨウ素 131 の濃度 (千葉市)		大人 (母親) が吸い込んだ量 (日)		母乳から排出されるはずの量 (20%)	実際に母乳から検出された量 (柏市)
	Bq/ m ³	ベクレル	ベクレル	ベクレル	Bq/ リットル	
3/14	6.8	152	152	30		
3/15	33.0	736	736	147		
3/16	7.4	165	165	33		
3/17	0.6	14	14	3		
3/18	0.6	14	14	3		
3/19	1.8	40	40	8		
3/20	33.0	736	736	147		
3/21	3.5	78	78	16		
3/22	47.0	1,048	1,048	210		
3/23	5.1	114	114	23		
3/24	2.4	54	54	11		
3/25	1.7	38	38	8		
3/26	0.3	7	7	1.4		
3/27	0.3	6	6	1.2		
3/28	1.5	33	33	6.6		
3/29	1.9	42	42	8.4		
3/30	2.0	45	45	9.0	56.0	
3/31	0.4	8	8	1.6		
4/1	0.7	15	15	3.0		
4/2	0.7	15	15	3.0		
4/3	0.8	17	17	3.4		
4/4	0.8	17	17	3.4		
4/5	0.2	5	5	1.0		
4/6	0.2	5	5	1.0	16.1	
4/7	0.1	3	3	0.6		

1. 千葉市の空気中のヨウ素 131 のデータは日本分析センターのデータによる。
 2. 大人の 1 日呼吸量は 22.3 m³ とする。
 3. 母乳からの排出率は摂取量の 20% とする。
 4. 母乳から検出されたのは 1 リットル当たりの濃度。

※母乳からの検出量は 1 リットル当たりの濃度ですので、1 日当たり泌乳量を 1 リットルとするとそのままの量となりますが、500 ミリリットルの場合は排出量はその半分を母乳から排出したこととなります。

ところで、千葉市のブルーム通過によるヨウ素 131 の濃度は 3/15 と 3/20、3/22 がピークで、3/23 以降の濃度はかなり低下しています。

「千葉市」で 3/30 に空気を吸っていた場合、お母さんは呼吸で 1 日に 45 ベクレルのヨウ素 131 を吸入し、母乳には 9 ベクレル排出されるはずで。

ところが、「柏市」のお母さんの母乳から 1 リットル当たり 56 ベクレル (6 倍) 検出されました。一日の泌乳量が 160 ミリリットルならこの通りです。しかし、4/6 の母乳も 1 ベクレルのはずが、16 ベクレル (16 倍) の検出でした。

柏市のお母さんは当時、水もペットボトルに変え、食べ物にもたいへん注意されていた方でしたので放射能の経口摂取は考えられません。

「つくば市」の空気と「守谷市」のお母さんの母乳データの違いも同様で、たいへん驚くべき違いでした。

千葉市と柏市、つくば市と守谷市、そんなにブルームの濃度が違っていたのでしょうか？ それとも排出率や排出速度の前提条件が間違っているのでしょうか。次回この点を検討します。（文責：大石）